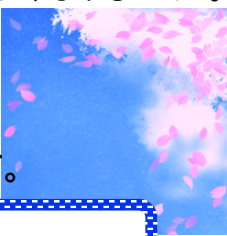


長崎北病院 伝言板 3月号

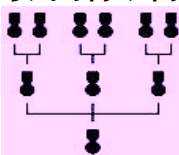
令和7年3月1日発行

弥生(やよい)3月。別名「花月」「桜月」。いよいよ春到来。寒すぎた2月。しかし、日の出は早く、夕方も遅くまで明るくなりました。白梅の花、アオモジの花芽がきらめく。「光の春」。飛び交う鳥の声も賑やか「音の春」。暖かくなるといよいよ本格的な「気温の春」。「梅は咲いたか、桜はまだかいな」。三寒四温を繰り返しながら春です。



「ニコニコ主義」

4月は満開の桜の下で新しき出立の季節。3月もまた咲き始めた桜と共に旅立ち、別れの季節でもある。結婚、転居、転職、退職。希望を持って旅立つ人がいる。しかし、人間関係、上司、同僚、待遇、雰囲気。辛い気持ちで職場を去る人もいる。申し訳ない。せめてこれからの新しい職場、別の道で楽しい思い、満足が待っていることを祈ります。



NHKに「ファミリーヒストリー」という番組があります。いろんな方の先祖や歴史を掘り起こして行きます。有名人、俳優、視聴者などのご先祖や苦労などが出てきます。そこはNHK。捜査力、しつこさ。戸籍、学校、古文書などあらゆる情報、伝手(つて)をたどって行きます。明治、大正どころか江戸時代、その先まで辿ることも。思いもかけない親戚がいたり、遠く離れた場所にルーツがあったり。巻物のような家系図がある家は別でしょうが普通は知っているのは2-3代前ぐらい。私の場合も、父方の祖父が医者で怖い人だったが、孫(私)にだけは甘かったとか、母方の祖父は若くして亡くなったが、若ハゲでツルツルだったそうで「あんたも遺伝で早く禿げるかもしれん」と言われて私は怯えていたという程度です。

その上の先祖は知りません。ファミリーヒストリーも娯楽番組ですから出てくるご先祖は苦労や貧乏はしても悪人は出てきません。でも先祖に「ヤバい人」もいるはず。「石川五右衛門」の子孫ですと言われたら、すでに伝説、笑い話ですが、近いところに犯罪者となると困ります。きっと知らなかったことにするのかな。

先日は「小島よしお」のファミリーヒストリーでした。海パン一丁で「そんなの関係ねえ!」のギャグで一世を風靡(ふうび)。どう見ても一発屋。消えたと思ったら、なんと子ども向けの動画やイベントで再ブレイク。親にも支持され、教育分野にも進出、子どもたちに大人気の芸人として復活。父方のルーツは400年続いた神職の家系。明治維新で職を失い北海道へ。祖父は苦学して銀行員になっています。その銀行では「ニコニコ主義」が掲げられていたそうです。はて、「ニコニコ主義」とは何ぞや?という疑問が湧きました。調べてみると牧野元次郎さんが掲げた主義で1911年にニコニコ倶楽部を発足。雑誌「ニコニコ」を発刊。「何事もニコニコとして行動する」「ニコニコの人は体もすこやかで家庭円満商売繁盛となる」という。なんともお気楽そうな主義ですが、それまでの日本は笑顔を見せては恥ずかしいというお国柄。そこに笑顔導入。伊藤博文、大隈重信、渋沢栄一、夏目漱石、与謝野晶子など錚々(そうそう)たる人物が笑顔写真を載せている。当時の雑誌で発行部数2位。以後の日本では顔写真は笑顔が定番となりました。小島よしおにも「ニコニコ」の遺伝子があるのかもしれませんが。今の時代、先行き、賃金、物価どうなるかわからない。先行き暗く不透明な時代には額にシワを寄せて厳しい顔になりがち。忙しい、きつい時にも怖い顔になる。険しい顔には、人は寄らず、チャンス、幸せは逃げていく。

辛い時、きつい時こそ笑顔で。「できるか、アホらし」と思うかもしれませんが



「そんなの関係ねえ!」。笑う門には福来る。頑張って笑顔と挨拶を。(A.S.)